

MAN 2 Yogyakarta の一年生の学生が語彙の能力を高めるためのクロスワードパズルの効果

ラハユ・プラミタ・サリ

20130830016

要旨

本研究は、クロスワードパズルの使用の効果の調べることとクロスワードパズルのメディアを使った後で、学習者の意見を知ることを目指している。

本研究は、実験的な研究アプローチを使用する。本研究のポプレーションは、MAN 2 Yogyakarta の一年生の学生である。本研究のサンプルは、日本語クラスを取る学習であった。サンプルは 26 人の理解クラスの一年生が実験クラスで、コントロールクラスは 24 人の社会クラスの一年生を使用する。データを集めるために、テストとアンケートを使用した。テストはトリートメントの前後で行った。アンケートはクロスワードパズルのメディア使った後で、学習者の意見を知ることを行った。

分析の結果に基づいて、*independent samples t-test* を使い、*t* 得点は 0.940 である。その結果を *t* 計数表に書いてある *t* 得点より (5% と $db=48=2.021$) 低い ($0.940 < 2.021$)。つまり、実験クラスとコントロールクラスの *posttest* は、有意差がない。そして、仮説検定に基づいて *normalized gain* を使い、実験クラスの *normalized gain* 得点 (N_{gain1}) は 0.73 である。コントロールクラスの *normalized gain* 得点 (N_{gain2}) は 0.79 である。このように、(N_{gain1}) のほうが (N_{gain2}) より低いである。そのために、クロスワードパズルの使っては日本語の語彙を高めるためのメディアが効果的ではないと言える。

アンケートの分析に基づいて、わずかの学生は、日本語の語彙を学ぶメディアのためクロスワードパズルを使用することが好きと述べた。学生達は、クロスワードパズルを使用し、日本語の語彙を学ぶことは非常に楽しい語彙を暗記することも容易になると述べた。

キーワード：効果的、メディア、クロスワードパズル、語彙、日本語。

I. 序論

言語は人間の生活のために非常に大切なことである。言語が存在しない場合、人間が通信することは困難であろう。言語の要素の中で、語彙は最も重要な要素である。十分な語彙理解せず、言語学習者は言語の研究を話すと翻訳するのが困難になる。浅野 (Dahidi と Sudjianto, 2004: 97) によると日本語を教える目的は、日本語学習者は正しい日本語を使ってアイデアを表現できるように、一つの要因は十分な語彙である。

語彙にいくつかの種類がある。例えば、動詞、形容詞、形容動詞、名詞、連体詞、助動詞、助詞、などがある。語彙の数が多いため、日本語学習者は語彙を暗記することは困難である。日本語学習者は語彙の数ので、語彙の暗記することが困難になる。そのために、語彙の学習を革新を必要とした。一つの方法は、学習メディアを使用することである。Hamalik (1994: 12) によると学習メディアとは、教師と生徒の間のコミュニケーションを促進するために使用される方法である。

語彙の学習に使用できるメディアはクロスワードパズルである。Zaini (2008: 71) クロスワードパズルは学習テストと楽しいゲームとして使用できる。また、学生が積極的に参加することもできる。先行研究はムスダリファの研究であり、タイトルは MA NU 04 Al Ma'Arif Boja 第一高校性の周期系の科学元素の改善された学習成果のためのクロスワードパズル効果の研究である。研究の結果は、クロスワードパズルの周期系の科学元素の学数成果を高めるために効果的と創められる。

そのため、本研究では、クロスワードパズルの使用の効果の検討することとクロスワードパズルのメディア使った語で、学習者の意見を知らることを目指している。本研究のタイトルは MAN 2 Yogyakarta の

一年生の学生が語彙の能力を高めるためのクロスワードパズルの効果である。

II. 本論

A. データおよび研究の方法

1. 研究アプローチ

本研究は、実験的な研究アプローチを使用する。本研究では、語彙の能力を高めるためのクロスワードパズルの効果を調べる。

2. 研究のポプレーションとサンプル

ポプレーションの本研究では、MAN 2 Yogyakarta の一年生の学生である。本研究のサンプルは、日本語クラスを取る学習者であった。サンプルは、26 人の理解クラスの一年生が実験クラスで、コントロールクラスは 24 人の社会クラスの一年生を使用する。

3. データおよび研究の方法

データを集めるために、テストとアンケートを使用する。テストはトリートメントの前後で行った。アンケートはクロスワードパズルのメディア使った後で、学習者の意見を知ることを行った。

4. 研究の実施期間

実験クラスとコントロールクラスのトリートメントは、2017年4月1日に行われた。実験クラスのトリートメント t は2回に行われた。それは2017年4月5日と2017年4月7日に行われた。コントロールクラスのトリートメントも2回に行われた。それは2017年4月19日と2017年4月2

6日に行われた。実験クラスの *posttest* は2017年4月19日に行われた。コントロールクラスの *posttest* は2017年4月26日に行われた。

B. データの結果と議論

1. テスト・データ解析
 - a. 平均地の差の検定

表 1
実験クラスとコントロールクラスの *Pretest*

クラス	平均	db	T 計数表	T 得点
実験クラス	67.4	48	2.021	3.627
コントロールクラス	53.7			

Pretest の分析に基づいて、*independent samples t-test* を使い、*t* 得点は 3.627 である。その結果を *t* 計数表に書いてある *t* 得点より (5% と $db=48=2.021$) 高い ($3.627 > 2.021$)。つまり、実験クラスとコントロールクラスの *pretest* は有意差がある。

表 2
実験クラスとコントロールクラスの *Posttest*

クラス	平均	db	T 計数表	T 得点
実験クラス	91.80	48	2.021	0.940
コントロールクラス	90.01			

Posttest の分析に基づいて、*independent samples t-test* を使い、*t* 得点は 0.940 である。その結果を *t* 計数表に書いてある *t* 得点より (5% と $db=48=2.021$) 低い ($0.940 < 2.021$)。つまり、実験クラスとコントロールクラスの *posttest* は、有意差ではない。

b. 有効性のテスト

表 3
仮説検定

実験クラス					コントロールクラス				
番号	学生のコード	T ₁	T ₂	(g)	番号	学生のコード	T ₁	T ₂	(g)
1.	E-1	83.3	100	1	1.	K-1	40	86.7	0.78
2.	E-2	73.3	100	1	2.	K-2	46.7	86.7	0.75
3.	E-3	66.7	86.7	0.60	3.	K-3	43.3	83.3	0.71
4.	E-4	76.7	90	0.57	4.	K-4	50	83.3	0.67
5.	E-5	66.7	93.3	0.80	5.	K-5	56.7	86.7	0.69
6.	E-6	80	90	0.50	6.	K-6	56.7	76.7	0.46
7.	E-7	86.7	96.7	0.75	7.	K-7	63.3	96.7	0.91
8.	E-8	63.3	96.7	0.91	8.	K-8	80	96.7	0.84
9.	E-9	63.3	93.3	0.82	9.	K-9	50	86.7	0.73
10.	E-10	56.7	96.7	0.92	10.	K-10	46.7	80	0.62
11.	E-11	46.7	96.7	0.94	11.	K-11	86.7	100	1
12.	E-12	56.7	86.7	0.69	12.	K-12	80	100	1
13.	E-13	40	96.7	0.95	13.	K-13	67.7	73.3	0.17
14.	E-14	73.3	86.7	0.50	14.	K-14	43.3	93.3	0.88
15.	E-15	70	90	0.67	15.	K-15	33.3	83.3	0.75
16.	E-16	53.3	93.3	0.86	16.	K-16	36.7	90	0.84
17.	E-17	83.3	96.7	0.80	17.	K-17	43.3	86.7	0.77
18.	E-18	56.7	80	0.54	18.	K-18	46.7	86.7	0.75
19.	E-19	56.7	80	0.54	19.	K-19	63.3	96.7	0.91
20.	E-20	73.3	86.7	0.50	20.	K-20	60	100	1
21.	E-21	76.7	86.7	0.43	21.	K-21	56.7	100	1
22.	E-22	56.7	90	0.77	22.	K-22	40	96.7	0.95
23.	E-23	80	96.7	0.84	23.	K-23	33.3	100	1

24.	E-24	80	93.3	0.67	24.	K-24	63.3	90	0.73
25.	E-25	70	90	0.67					
26.	E-26	63.3	93.3	0.82					
Σ				19.06	Σ				18.91
M				0.73	M				0.79

有効性のテストに基づいて、*normalized gain* を使い、実験クラスの *normalized gain* 得点(N_{gain1})は 0.73 である。コントロールクラスの *normalized gain* 得点(N_{gain2})は 0.79 である。0.73 と 0.79 は非常に効果的な基準に含まれている。でも、実験クラスの *normalized gain* 得点(N_{gain1})のほうがコントロールクラスの *normalized gain* 得点より低いである。

c. 仮説検定

分析の結果に基づいて、*independent samples t-test* を使い、 t 得点は 0.940 である。その結果を t 計数表に書いてある t 得点より (5% と $df = 48 = 2.021$) 低い ($0.940 < 2.021$)。つまり、実験クラスとコントロールクラスの *posttest* は、有意差がない。

そして、仮説検定に基づいて *normalized gain* を使い、実験クラスの *normalized gain* 得点(N_{gain1})は 0.73 である。コントロールクラスの *normalized gain* 得点(N_{gain2})は 0.79 である。このように、(N_{gain1})のほうが(N_{gain2})より低いである。

そのために、クロスワードパズルの使うことは日本語の語彙を高めるためのメディアが効果的ではないと言える。

2. 非テスト・データ解析

アンケート分析に基づいて、わずかの学生は、日本語の語彙が多いために、語彙を暗記することは困難であると思われる。

クロスワードパズルを使用して語彙を学習した後、良好な応答を与えた。88%の学生は日本語の語彙を学ぶのメディアのためのクロスワードパズルを使用することが好きと述べた。学生たちは、クロスワードパズルを使用して日本語の語彙を学ぶことはとても楽しと語彙を暗記することが容易になると言った。しかし、12%の学生は日本語の語彙を学ぶメディアのためのクロスワードパズルを使用することが好きではないと述べた。学生たちは、クロスワードパズルを使用して日本語の語彙を学ぶことはつまらないと述べた。

III. 結び

分析の結果に基づいて、*independent samples t-test* を使い、*t* 得点は 0.940 である。その結果を *t* 計数表に書いてある *t* 得点より (5% と $db=48 = 2.021$) 低い ($0.940 < 2.021$)。つまり、実験クラスとコントロールクラスの *posttest* は、有意差がない。

そして、仮説検定に基づいて *normalized gain* を使い、実験クラスの *normalized gain* 得点 (N_{gain1}) は 0.73 である。コントロールクラスの *normalized gain* 得点 (N_{gain2}) は 0.79 である。このように、(N_{gain1}) のほうが (N_{gain2}) より低いである。

そのために、クロスワードパズルの使っては日本語の語彙を高めるためのメディアが効果的ではないと言える。

アンケートの分析に基づいて、わずかの学生は、日本語の語彙を学ぶメディアのためクロスワードパズルを使用することが好きと述べた。学生達、クロスワードパズルを使用して日本語の語彙を学ぶことはとても楽しい語彙を暗記することも容易になると述べた。

参考文献

Dahidi, Ahmad dan Sudjianto. 2004. *Pengantar Linguistik Bahasa Jepang*. Jakarta: Kesaint Blanc.

Hamalik, Oemar. 1994. *Media Pendidikan*. Bandung: Citra Aditya Bakti.

Muzdalifah, Siti. 2011. *Efektivitas Penerapan Metode Crossword Puzzle dalam Meningkatkan Hasil Belajar Peserta Didik pada Materi Pokok Sistem Peri Periodik Unsur Kelas X MA NU 04 Al Ma'Arif Boja*. Skripsi S1 pada Jurusan Tadris Kimia Institut Agama Islam Negeri Walisongo. Semarang: tidak diterbitkan.

Zaini, Hisyam . 2008. *Strategi Pembelajaran Aktif*. Yogyakarta: Insan Madani.